

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400537		
法人名	医療法人メディライフ		
事業所名	グループホームひいらぎ		
所在地	愛知県半田市岩滑中4-180		
自己評価作成日	平成22年10月14日	評価結果市町村受理日	平成22年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372400537&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2372400537&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中村区松原町一丁目24番地 COMBi本陣S101号室
訪問調査日	平成22年11月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

共に暮らしているという思いで利用者さんと職員さんが地域の方や家族に助けられながら、支えあって暮らしています。1人ひとりの生活に合わせたケアの実施に力を入れ、その人らしくいつまでも暮らせるようなケアを目指しています。春は花見、夏は花火大会、秋は紅葉狩り、冬は初詣で、家族と共に楽しむ新年会と「四季を楽しみ、花を楽しみ、自分らしく生きる…を実現のためにひとそれぞれ夢のある毎日を」をスローガンに日々の生活を楽しめるよう努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、民家を改修したことで、近隣にも目立たず、住民とも日常的な付き合いができています。訪問調査当日も、地域で防災訓練があり、ホームからも職員と利用者が訓練に参加し、近所同士が声掛けあつて行くという、普通のお付き合いが実践されていた。このような取り組みもあり、地区の役員もホームのことを気かけ、ホーム内での対応の現状についても理解が得られている。さらに、市の花火大会の際には、市の関係者と交渉しながら、特別観覧席の設置してもらい、席の近くまで送迎車の乗り入れについても、市側の理解が得られ、利用者の負担軽減を図ることができた。管理者は、一人ひとりが快適で穏やかな生活をおくってほしいという思いを持ちながら接し、職員もその思いを理解し、日々のケアにあつたっている様子が窺えた。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を揚げ、共有し、よく話し合っている。	ホーム内に理念を掲げている他、会議等の際にスローガンを作って話し合い、日々のケアに活かしている。四季の変化を感じながら、ホームでの生活が快適になることを目指して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入り、地域の老人会、避難訓練への参加、近隣から野菜をいただいたりと日常的なかかわりがある。	地域の「ふれあい会」で管理者が、介護の知識や情報交換をする機会がある。また、近隣住民から、採れたて野菜や頂き物のおすそ分けもある。町内会の回覧板も回り、地域の行事(防災訓練等)に参加し、交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月2回のふれあい会に可能な限り参加し認知症の事や不安を聞いて相談にのっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営促進会議で意見を職員会議で話し合っており、できる範囲でサービスの質の向上につとめている。広報の作成に取り組んでいる。	会議では、状況報告等がされ、話し合いが行われる。参加者からはホームのことを知ってもらうために外出してはどうか、との意見があり、地域の「ふれあい会」に参加することになった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村主催の定期的な在宅ケア推進会議に参加し市町村主催のイベントにも参加している。	2か月に1回行われる在宅ケア地域推進会議に出席し、意見交換をしたり、相談したい際には随時連絡を取り合っている。市の花火大会の際には、利用者のための特別席に車両が乗り入れることについて交渉し、実現につなげた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施設ははずし、買物や散歩など出来るだけ外出するように努めている。利用者にとって安全の確保のためやむをえない場合は家族の了解を得ている。	利用者の状況により、必要時には家族の同意を得るが、身体拘束をしないケアについて職員で確認している。また、日常的にもケアが身体拘束にあたるかどうか話し合いを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の危険性について話し合っているが十分ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加したりしているが十分ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の家族会や来所の折などに意見を伺って反映できるよう努めている。	月1回の家族会の機会を設けるなどの取り組みで、ホームに来所していただき、個々に現状を説明して、意見や要望等を確認している。また、ホーム便りを毎月発行し、ホームでの暮らしぶりを報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や定期以外にもミーティングなどを設けている。	管理者専用のBOXがあり、どんなことでも直接本音で意見が言える仕組みを作っている。月1回の職員会議の際には、基本的に全員の出席があり、ホームからも参加手当を支給し、意見を言う機会としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できるだけ個別で話し合いできる場を設けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1回の法人の他事業所との交流会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の今までの生活や不安を十分に聞いてサービスを開始できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に家族と十分話し合う時間をとるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーとも相談しながら他サービスの利用も考慮しながら入居に向けて話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすという視点のもとに日々過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人を支える関係作りに配慮したプランを作成している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族とそのつど話し合いながら、安全面にも配慮してご友人との外出など支援に努めている。	家族の了解のもと友達と食事に出かける人、馴染みの美容室に職員が送迎、近くのお墓参りに職員が同行、知多四国の弘法さんのお参り等、一人ひとり思いや要望を確認しながら、できるだけの支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の雰囲気を感じながら職員が間に入り、一緒に生活している楽しさも感じてもらえるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もホームに訪ねてくださったり、使用中のサービスに必要な情報の提供に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや暮らし方の希望を1番にプランを作成し、ご家族の意向の把握も努めている。	職員は、一人ひとりの思いを確認する為に、1対1になる入浴時や居室時等の際に、聞き取るように取り組んでいる。家族とも話し合いながら、計画の作成に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴シートを活用し、それ以外にもご家族から話を聞いてホームでのケアに必要な情報をとりいれている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日によって心身の状態が違うので職員間の引継ぎや記録をみて現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回の家族会、本人と話す機会を設け、必要に応じて個別に連絡を取り相談し介護計画にとりいれている。	職員は担当制で、プランの見直しの際の原案を出すように取り組んでいる。月1回の職員会議では、全員が情報を共有し、プランの実行につなげている。見直しは3か月に一度であるが、急変時には随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に記録に記入し情報を共有しプラン会議の時見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況によって職員間で話し合いサービス内容をかえている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医をどうするか入居時に相談し、状況に合わせてそのつど話し合っている。必要であれば専門の科に受診するなど支援している。	協力医の月2回往診がある他、2週に1回の訪問看護があり、適切な医療を受けられる仕組みで、緊急時には24時間の支援態勢がとられている。入居以前の専門医を継続受診する人についての受診は家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の事前シートを使用して、状態の変化の連絡がもれないようにしている。受診の際は受診シートを活用し家族、主治医と連携をとるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は職員ができるだけ病院に行き、病院、家族と連絡をとって早めの退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		家族と確認しながら、事前指示書を作成している。家族と何度も話し合い、条件が整えば看取りを行う方針である。協力医の24時間体制、訪問看護の対応、家族の協力を得て、職員は支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、地域の避難訓練にも参加している。	年2回の避難訓練では、夜間を想定した訓練も実施している。地域の防災訓練の際には、職員と利用者が参加し、地域との協力関係もある。屋外に大きなタンクを設置し、緊急時の水の確保に努めている。	民家改装型ホームの問題点である、急な階段や狭い通路の対応のため、日頃の職員の避難・連絡方法の確認を、継続的に実行されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修や接遇で話し方、利用者の方への不快な言動のないように気をつけている。	自尊心を傷つけないようにトイレ誘導、入浴時の声掛けには気を付け配慮している。日々のケアの際にも尊敬の念を持ち、馴れ馴れしくならないように心掛けている。	利用者と職員の距離が近いことと、家族とのつき合いが長いことで、馴れ馴れしくならないように、継続的な研修や日頃の確認を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望の少ない人には希望が出やすいように選択肢をしばって尋ねるなど工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう職員どうし配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に着る服を選んでもらったり、一人ひとりにあわせて整容していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ季節の物を使い役割を持って楽しんでいただいている。食事の形状が刻みやペーストの方にも彩りなど配慮している。	メニューは、朝食べたいものを聞いたりしながら決めている。調理や配膳等には、できる方には参加してもらっている。食材は、買い物をしたり、業者から取り寄せたりしている。食事時は、職員も同席し、楽しく過ごせるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し体重や血液検査の結果など目安に、一人ひとりに合わせた栄養摂取、水分補給のプランを実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。自立の方も最終確認するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの必要な方でも、日中は下着と併用するなどしている。尿意のない方でもトイレに座る機会をつかってトイレでの排泄に努めている。	夜間オムツの方は、日中紙パンツに履き替えて、トイレでの排泄に心掛けている。昼間は、時間をみながら、声をかけてトイレ誘導を行っている。夜間については、トイレの回数をチェックしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌やバナナなど良く食べるようにして、個々の排便のリズムをつかみ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者さんによってだいたいの入りたい頻度を把握し、そのつど声をかけて実施しているが、体力的な事もあり希望にそえない事もある。毎日入りたい方や夜入りたい方にも可能な範囲で実施している。	毎日夕方の時間であるが、夜入浴される方もいる。順番が決めていないが、その日の状況で大体決まっている。個浴と数人が入浴できる浴槽がある。リフトが設置されていることで重度の方の入浴も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんのだいたいの就寝時間を把握し、その方の様子を見ながら声かけなど実施している。体調不良や熱発のときは休息をうながすなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時は申し送りして、状態の変化を記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴シートを、ケアプランの作成、実施に活用している。誕生日の日は利用者さんの希望を聞いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望を聞いて実施している。日々の会話の中から行きたい所や希望を聞き実施している。	全員で外出することを心掛けている。喫茶店でのモーニング、散歩、買い物等、外出の機会を作っている。遠出をしての外出や、一泊旅行も実施し、全員で楽しい時間を過ごせるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族に相談して実施している利用者の方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある場合家族に了解を得て支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ季節を感じられるよう花や飾り物をかざり、温度、湿度にも気をくばっている。	花がテーブルの真ん中に飾ってあり、四季の変化を感じながら、詩を読む人もある。玄関やベランダに椅子があり、気分転換する場所となっている。天気の良い日は気軽に外の気分が味わえ、テラスでバーベキューを楽しむこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	セミパブリックな空間作りに心がけている。バルコニー、玄関のソファ、2回廊下の長いすなど配置、和室(事務所)の活用。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのダンスや写真、飾りなど持ってきていただいている。	全居室に季節の花を飾ってあり、朝目が覚めたときと夜眠る前に季節を感じてもらうための配慮である。居室内には、写真、ダンス、机等、使い慣れた品々が持ち込まれ、居心地良く過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の方の状態に合わせて、居室の手すりや家具配置、寝具の種類など検討している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームひいらぎ

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 12月 20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	利用者の重度化と民家改装であるための避難と緊急連絡方法の再考と徹底	いろいろな場面を想定して利用者と職員の安全と安心を図る。	一人体制時(夜勤)等や避難困難な場合の訓練を実施する。	6ヶ月
2	7 8 13	高齢者虐待、権利擁護同業者との交流、法人内研修に一部の職員しか行っていない。	職員一人ひとりが研修に参加し知識を身につけ、現場に生かせるようにする。	各項目に関する研修開催の情報を報告し参加できる様、勤務を調整する。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月